令和 2 年度第 2 回臨時課題評価の考え方について

令和 2 年 8 月 2 0 日
ガバニングボード決定

1. 第 2 回臨時課題評価WGの実施について

「令和 2 年度 S I P 第 2 期臨時課題評価結果への対応について」（令和 2 年 6 月 2 5 日のガバニングボード決定）において、令和 2 年度 6 月配分時点で未配分の予算は、本年 8 月（予定）に臨時課題評価WGを開催し、追加配分することが適当であるか否かの審査を行い、最終的にガバニングボードにて追加配分の適否及び金額について決定することとなっていた。

これに基づき、7 月 2 8 日に臨時課題評価WG 第 2 回を開催し、追加配分することが適当であるか否かの審査を行った。

2. 追加配分の審査の考え方について

令和 2 年度 6 月配分後の時点で未配分の予算について、当初計画の加速や現況を踏まえ機動的に対応すべき施策のうち緊要性の高い施策及び新型コロナウイルス感染症対策の影響による研究計画の見直しへの対応が必要な施策案に絞って追加配分の施策候補とすることとして、追加配分することが適当であるか否かについて審査を行った。

臨時課題評価WGにおいては、課題との整合性が図られているか、緊要性があるか、新型コロナウイルス感染症対策の影響による研究計画の見直しの必要性（関係がある案件のみ）の観点で審査を行い、採択の可否について判定を行った。

最終的に、採択の可否の判定において、「C」判定以外の得票率が最多となる場合に、採択することとする。

また、採択することとなった案件について、採択の可否の判定における最多得票率となる判定結果を比較し、追加配分案件の優先順位を定める。その上で、留保している予算の総額と追加配分案件ごとの要望額を確認し、それぞれの追加配分案件に対する配分額をガバニングボードにおいて決定する。

表 1：臨時課題評価WGにおける追加配分審査の視点

採否判定	判定結果	
採択の可否	A+	最も優先的に追加配分すべきである
	A	優先的に追加配分すべきである
	B+	追加配分すべきである

	B	追加配分することを妨げない
	C	追加配分すべきではない
審査の視点	評価基準	
1. 課題との整合性	十分整合している	
	概ね整合している	
	整合していない	
2. 緊要性	緊要性が非常に高い	
	緊要性が高い	
	緊要性が低い	
3. 新型コロナウイルス感染症対策の影響による研究計画の見直しの必要性	見直しの必要性が非常に高い	
	見直しの必要性が高い	
	見直しの必要性が低い	

3. 追加配分の採点結果

第2回臨時課題評価WGにおける追加配分施策の採点結果は次の通り決定する。

表2：追加配分案件の採否判定の結果

課題名	案件名	採択の可否判定における各判定結果の得票率					採否の判定	優先順位
		A+	A	B+	B	C		
自動運転（システムとサービスの拡張）	新型コロナウイルス感染症対策に対応したリカバリプラン	8.3%	16.7%	8.3%	<u>66.7%</u>	0%	採用	2
国家レジリエンス（防災・減災）の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星画像を用いた災害検知能力の向上加速 ・線状降水帯雨量予測の加速 ・中小河川におけるリアルタイム洪水予測の加速 	<u>58.3%</u>	41.7%	0%	0%	0%	採用	1

以上

	課題名	追加配分案件名	概要	配分額 (百万円)	評価WGの結果（得票率）					評価委員の主なコメント※	追加配分の付帯事項
					最も優先して採用すべきである	優先して採用すべきである	採用すべきである	採用することを妨げない	採用すべきではない		
1	自動運転（システムとサービスの拡張）	新型コロナウイルス感染症対策に対応したリカバリプラン	自動運転技術の早期社会実装を目指し、東京臨海部において実証実験等を実施しているところ、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の影響による実証実験の中断等を受け、今年度内での計画遅延の挽回、実施期間の延長等の実施	90.0	8.3%	16.7%	8.3%	66.7%	0.0%	○研究開発の当初計画の遅れを挽回し、年度内の予定通りの成果創出の観点では緊要性が認められる。 ●小さくない予算のためポストコロナ時代に向けて、リモートで実施できる工夫の導入を行うべき。	【採用】 計画の遅延に対する挽回に留まらず、ポストコロナの中でも取組み可能な形態への変革を組み入れること。
2	国家レジリエンス（防災・減災）の強化	・衛星画像を用いた災害検知能力の向上加速 ・線状降水帯雨量予測の加速 ・中小河川におけるリアルタイム洪水予測の加速	衛星画像即時共有システムの開発を加速し、衛星画像による災害検知に地域特性も考慮に加えることで災害検知能力を向上させる 線状降水帯の積算雨量予測システムを民間気象会社で導入可能とするようシステムの構築を行う。 中小河川の洪水予測の更なる早期化と水位予測精度の向上に取り組む。	110.0	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	0.0%	○毎年度、深刻な水害や土砂災害が発生している現状を勘案すれば、緊急性、重要性ともに非常に高い。 ○予測精度を高めるとともに、予測→速やかな避難に結び付け、人命が損なわれることがないように減災へつなげられるよう取り組まれない。	【採用】